様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	都市デザイン工学科	夜・通信	—	10	93	103	13	
	建築学科	夜・通信	—	10	59	69	13	
	機械工学科	夜・通信	—	10	22	32	13	
	電気電子システム工学科	夜・通信	—	10	49	59	13	
	電子情報システム工学科	夜・通信	—	10	53	63	13	
	応用化学科	夜・通信	—	10	30	40	13	
	環境工学科	夜・通信	—	10	28	38	13	
	生命工学科	夜・通信	—	10	43	53	13	
	ロボット工学科	夜・通信	—	10	23	33	13	
	空間デザイン学科	夜・通信	—	10	32	42	13	
ロボティクス＆デザイン工学部	ロボット工学科	夜・通信	—	2	26	28	13	
	システムデザイン工学科	夜・通信	—	2	30	32	13	
	空間デザイン学科	夜・通信	—	2	60	62	13	

情報科学部	情報知能学科	夜・通信	—	11	53	64	13	
	情報システム学科	夜・通信	—	11	75	86	13	
	情報メディア学科	夜・通信	—	11	58	69	13	
	ネットワークデザイン学科	夜・通信	—	11	58	69	13	
知的財産学部	知的財産学科	夜・通信	—	—	127	127	13	

（備考）
１．工学部ロボット工学科、工学部空間デザイン学科は、２０１７年度から募集停止
２．工学部電子情報システム工学科は２０１９年度より電子情報通信工学科から名称変更
３．情報科学部情報知能学科は２０１９年度よりコンピュータ科学科から名称変更
４．情報科学部ネットワークデザイン学科は２０１９年度より情報ネットワーク学科から名称変更
５．学部等共通科目について
・工学部：「キャリア形成の基礎」、「工学の基礎」、「数理科学と教育」、「その他連携科目」が該当
・ロボティクス＆デザイン工学部：「共通教養科目」、「工学関連科目」が該当
・情報科学部：「共通科目」、「キャリア科目」（2018 年度以降入学生のみ）

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ　：http://www.josho.ac.jp/introduction/
学園広報誌「FLOW」：2018 年 8 月 10 日発行　P.27 ～P.28
http://www.josho.ac.jp/flow/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	株式会社 特別顧問	2018 年 7 月 20 日～2020 年 7 月 19 日	理事長
非常勤	法律事務所所長	2018 年 7 月 20 日～2020 年 7 月 19 日	労務担当
非常勤	一般社団法人理事長	2018 年 7 月 20 日～2020 年 7 月 19 日	産学連携担当
非常勤	株式会社代表取締役会長	2018 年 7 月 20 日～2020 年 7 月 19 日	産学連携担当
非常勤	財団法人理事長	2018 年 7 月 20 日～2020 年 7 月 19 日	卒業生担当
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画（シラバス）を作成し、公表していること。

（授業計画の作成・公表に係る取組の概要）

本学では、全ての科目において、授業科目の概要・各回の授業内容や予習復習指示・到達目標・評価方法・成績評価基準・教科書や参考書、オフィスアワーなどをシラバスに明記しています。

シラバスは、全学教務委員会で承認されたシラバス作成方針に基づき、各授業担当者が作成しています。作成方針は、全学教務委員会から各学部教務委員会を通じて、全学部・学科に周知徹底を図っています。また、作成されたシラバスは、内容がカリキュラム・ポリシーや体系に即したものとなっているかを学科長や教務委員が確認しており、授業担当者以外の第三者がチェックする体制を全学的に確立しています。

公表は、学生や教員のみならず進学希望者も広く閲覧できるように本学ホームページのシラバス専用ページに掲載しています。

授業計画の公表方法	本学ホームページ https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

授業科目の学修成果は、あらかじめシラバスに示されている到達目標・評価方法・成績評価基準に基づき判定しています。成績評価基準は全学で統一しているほか、評価方法は学期末の試験（定期試験）のみならず、平常点、レポート、小テスト等を加味した多様な手段で評価し、それらを基に総合的に評価しています。

また、2017 年度より必ず身につけなければ単位修得ができない最低限の基準となる「ミニマム・リクワイアメント」をシラバスに明記し厳格な成績評価の運用を推進しています。

学修成果の発表は、9 月（前期）と 3 月（後期）に「学業成績簿」を交付する形で行います。なお、クォーター科目（前半）の学業成績発表は Web 公開のみとし、7 月（前期前半）と 12 月（後期前半）に行います。

学業成績の評価基準および表示は以下のとおりです。

表示	N	G	A	B	C	D	F	＊
点数等	認定	合格	100－90	89－80	79－70	69－60	59－0	評価不能
合否		合格					不合格	

（注）①定期試験等非受験、レポート未提出および授業に出席していないなどにより、成績の評価ができない場合は「＊」と表示されます。

②点数等で評価できない、演習等一部授業科目の合格は「G」で表記する場合があります。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本学では 2010 年度から GPA 制度を全学部で導入しています。

GPA の算出方法は予め設定しており、本学ホームページでの公表のほか、入学後に配付する学生便覧や履修申請要領に明記しており、学生の履修科目の成績に基づき算出しています。算出方法以下のとおりです。

成績評価のうち、A につき 4.0、B につき 3.0、C につき 2.0、D につき 1.0 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じた積の合計を、履修登録科目の総単位数で除して算出し小数点第 2 位まで表記。（小数点第 3 位を四捨五入）

GPA は、学業成績簿につぎの3種類の方法で算出した数値を表記し運用。

①T－GPA（総累計）：入学後からこれまで履修登録した科目の成績を基礎数値として算出

②S－GPA（当該学期）：各学期に履修登録した科目の成績のみを基礎数値として算出

③Y－GPA（当該年度）：各年度に履修登録した科目の成績のみを基礎数値として算出

$$\text{GPA} = \frac{4.0 \times \text{成績Aの修得単位数} + 3.0 \times \text{成績Bの修得単位数} + 2.0 \times \text{成績Cの修得単位数} + 1.0 \times \text{成績Dの修得単位数}}{\text{履修登録科目の総単位数(成績が「F」、「*」の科目の単位数も含む)}}$$

※GPA の計算対象外の授業科目

・卒業要件に含むことができない授業科目

・成績評価が「N」、「G」の合否で評価される授業科目

・履修辞退した授業科目

客観的な指標の算出方法の公表方法	本学ホームページ https://www.oit.ac.jp/japanese/students/credit.html#credit4

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定し、卒業を認定するうえで、授業や卒業研究を通じて学生の方が身に付けるべき力を具体的に示しています。この方針は、本学ホームページ等で公開しているほか、学生の方には本学独自の学修成果可視化システムによりディプロマポリシーの達成度を確認できるようになっています。

また、卒業の要件は学則第 25 条・31 条に定めるほか、学科ごとの詳細を各学部履修規定に定め、所定の修得単位数等を踏まえ、教授会の議を経て学長が卒業を許可します。

【卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）の具体的な内容】

工学部

４年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

（１）実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕

（２）人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文･理･情報系の素養〕

（３）専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識･技術(詳細は学科DP)〕

（４）技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション力〕

（５）社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕

（６）地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕

工学部　都市デザイン工学科

都市デザイン工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）総合的な視点からの基礎学力を修得し、広い視野と確かな判断力を身につける。〔基礎学力・判断力〕
（B）科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、自己実現と自己責任の意識を持った自律できる技術者としての素養を身につける。〔技術者倫理〕
（C）数学、物理学、化学、地学、生物学などの自然科学および情報の基礎的学問を身につける。〔自然科学・情報処理〕
（D）都市デザイン工学科の専門領域（共通系、デザイン・計画系、構造系、コンクリート・材料系、地盤系、河川・海岸系）の内容を修得し、社会基盤の整備や都市および地球環境の保全に関する専門知識と技術を身につける。〔専門知識・技術〕
（E）協調性、指導力、計画的に作業を実施する素養を養うとともに、観察力、理解力、考察力、説明能力を身につける。〔実践力〕
（F）専門的な知識や技術を多角的・総合的に用いて社会が要求する問題を把握・整理し、解決するデザイン能力ならびにプレゼンテーション能力を身につける。〔問題解決・プレゼンテーション能力〕
（G）社会人として基本的なコミュニケーション能力とマナーを身につける。〔コミュニケーション能力〕
（H）グローバル化時代に対応できる国際感覚・国際性を身につける。〔国際性〕
（I）社会要請の変化に対応して、生涯学び続ける姿勢・自己学習の習慣および問題を解決する能力を身につける。〔生涯自己学習〕

工学部　建築学科

建築学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）人文社会科学や自然科学などの幅広い教養と英会話を含めたコミュニケーション能力を身につけ、それを建築のプロフェッショナルとして活かすことができる。〔幅広い教養に基づいたコミュニケーション能力〕
（B）建築学の各分野で修得した幅広い知識・技術をもとに、総合的な見地から、多様な建築を設計・施工・管理・維持する技術的能力を修得し、それを実務で活かすことができる。〔専門基礎知識・技術の実践・応用力〕
（C）建築学の各分野で修得した専門的な知識・技術をもとに、自発的に建築の学習を継続し、建築のプロフェッショナルとして自らを高めることができる。〔自己啓発に努める生涯学習能力〕
（D）自身のアイデアを文章や図面にまとめ、表現する能力を身につけ、他者に正確に伝えることができる。〔確かなデザイン力に基づいたプレゼンテーション能力〕
（E）社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、他者と協力して社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を見いだすことができる。〔協働的かつ主体的な課題発見・解決力〕
（F）建築のプロフェッショナルとして使命感や倫理観を身につけ、社会的責任について考え、説明することができる。〔技術者としての実践的倫理観〕

工学部　機械工学科

機械工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕
（B）数学、物理などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕
（C）機械工学の基礎知識を修得し、実際に生じている現象を分析、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕
（D）【発展コース】機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕
【実践コース】機械工学の専門知識を自らのものとし、学んだ知識や技術を実際の問題に適用できる。〔デザイン能力〕
（E）【発展コース】実践に必要な設計・生産技術（ものつくりの技術）を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕
【実践コース】実践に必要な設計・生産技術（ものつくりの技術）を学び、エンジニアとしてそれを具体的な課題に適用することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕
（F）多様な価値観を持つ他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を他者に理解してもらうコミュニケーションや討議能力を持ち、また英語での基礎的なコミュニケーションをとることができる。〔コミュニケーション能力〕
（G）工学の発展に興味を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学び続け進歩し続けることができる。〔情報収集・生涯学び続ける能力〕

工学部　電気電子システム工学科

電気電子システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）社会で必要とされるエンジニアとしての基礎力である数学・自然科学の基礎知識と電気電子工学分野の基礎知識に習熟しそれらを活用することができる。〔基礎学力〕

（B）電気電子システム工学の基礎知識を活かし、技術的な課題を抽出し解決に導くことができる。〔知識・理解・論理的思考力〕

（C）理論的な思考に基づき自分の意見を明確に発表でき、他者との討論を通じて互いの意見を理解しながらチームで課題解決の作業をすすめることができる。〔コミュニケーション能力〕

（D）持続可能な社会を実現するために、未知の課題に対応できるよう、幅広い学修経験に基づいて自主継続的に学修することができる。〔継続学修〕

（E）技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負う使命と倫理的責任に基づいて行動することができる。〔技術者倫理〕

工学部　電子情報システム工学科　（旧：電子情報通信工学科）　※2019 年 4 月名称変更

【基幹コース】

電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。

A-1）数学や自然科学等の基礎的知識を持ち、それらを応用することができる。〔数学・自然科学の基礎知識と応用力〕

A-2）コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。〔文章・統計資料の作成と情報検索能力〕

（B）国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。

B-1）人文科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構想することができる。〔人文社会・社会科学の知識と社会貢献の自覚〕

B-2）技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職業人として社会に貢献する自覚ができている。〔技術者倫理の理解と社会貢献の自覚〕

（C）国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身についている。

C-1）日本語による論理的な表現ができる。〔日本語での論理的な表現力〕

C-2）外国語によるコミュニケーションができる。〔外国語での対話能力〕

C-3）技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。〔技術的な内容の伝達能力〕

（D）電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組むことができる。

D-1）電磁気学、電気回路、電子回路などの知識を身につけている。〔電磁気学・電気回路・電子回路の知識〕

D-2）電子デバイスなどハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。〔ハードウェアに必要な知識・技能〕

D-3）情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。〔ソフトウェア・ネットワークの技能〕

D-4）電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。〔電子・情報通信分野での課題解決能力〕

（E）自主的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。

E-1）チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。〔チームワークによる課題解決能力〕

E-2）さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。〔独自の方法での課題解決能力〕

E-3）与えられた条件下で課題を解決することができる。〔与えられた条件下での課題解決能力〕

E-4）自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。〔課題解決能力を向上させる能力〕

【実務コース】

電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。
　A-1）数学や自然科学等の基礎的知識を応用することができる。〔数学・自然科学の基礎知識と応用力〕
　A-2）コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。〔文章・統計資料の作成と情報検索能力〕
（B）国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。
　B-1）人文科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構想することができる。〔人文社会・社会科学の知識と社会貢献の自覚〕
　B-2）技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。〔技術者倫理の理解と実践力〕
（C）国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身についている。
　C-1）日本語による論理的な表現ができる。〔日本語での論理的な表現力〕
　C-2）外国語によるコミュニケーションができる。〔外国語での対話能力〕
　C-3）技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。〔技術的な内容の伝達能力〕
（D）電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。
　D-1）電気回路などの専門的な知識を身につけ活用できる。〔電気回路等の専門的知識と活用能力〕
　D-2）電子デバイスや情報通信、ハードウェアやソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。〔電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力〕
　D-3）電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。〔電子・情報通信分野での課題解決能力〕
（E）自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。
　E-1）チームワークで課題解決の計画を立案してそれを遂行できる。〔チームワークによる課題解決能力〕
　E-2）さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。〔独自の方法での課題解決能力〕
　E-3）与えられた条件下で課題を解決できる。〔与えられた条件下での課題解決能力〕
　E-4）自主的な学修を継続することができる。〔自主的な学習の継続能力〕

工学部　応用化学科

応用化学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）人文社会科学や自然科学などの幅広い教養を身につけ、広い視点で化学技術力を発揮できる。〔幅広い教養と応用力〕
（B）化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。〔化学の専門知識の修得力〕
（C）化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。〔他者との協働性と課題解決能力〕
（D）持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命観や倫理観をもって行動できる。〔化学技術者としての使命感・倫理観と実践力〕
（E）化学技術の基礎を継続して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。〔継続的な学修力とケミカルハザード・リスクへの対応力〕
（F）化学の専門知識と技術力をもとに、 自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。〔化学の専門知識を基盤としたコミュニケーション能力〕
（G）情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。〔情報技術を活用した発信力〕

工学部　環境工学科

環境工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）環境エネルギー・自然環境・資源循環・環境システムに関する問題を、工学・理学・農学・社会科学的に捉え、改善策を立案できる。〔基礎知識・問題解決力〕
（B）環境エネルギー・自然環境・資源循環・環境システムに関する問題に対し、集団内で意見交換をしながら課題を明確化し、知識を共有することを通して対策法を提案できる。〔コミュニケーション力〕
（C）地域および地球環境問題の現状と未来に技術者として関わる意思をもち、従前の英知・工夫を継承しつつ、技術的かつ政策的手法について自らの能力を継続的に高め、その手法について説明できる。〔継続的学修・倫理観〕
（D）自然・社会現象の計測・測定と、物質収支やエネルギー収支の定量的な取り扱いができ、その内容を客観的に分析・評価し、他者と協議できる。〔データ処理・論理的解析〕
（E）世界各地で生じている環境問題に広く目を向ける国際感覚を持ち、習得した環境技術や自らの問題意識を、国際的に正しく情報発信できる。〔国際感覚〕

工学部　生命工学科

生命工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）生命工学で学んだ知識を活用し、地球的視点から多面的に物事を考えることができる。〔専門的な視野、思考力〕
（B）生命工学の技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関して理解し行動できる。〔専門的な理解・責任力〕
（C）生命工学において必要とされる数学および自然科学に関する知識を身に付け、それらを応用することができる。〔数学・自然科学知識の実践力〕
（D）生命工学において必要とされる専門的知識を身に付け、それらを応用することができる。〔生命工学知識の実践力〕
（E）生命工学の学問的知識、技術および情報を活用して社会の課題解決のためのデザインができる。〔課題発見、解決力〕
（F）論理的な記述、口頭発表、討議等でのコミュニケーションをとることができる。〔論理構築・発表・討議力〕
（G）自主的、継続的に学習することができる。〔能動性、自己啓発力〕
（H）与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめることができる。〔計画・遂行力〕
（I）チームで仕事をすることができる。〔協働力〕

ロボティクス＆デザイン工学部

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通して、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

（1）専門分野はもとより、人文・社会・自然科学その他幅広い知識・教養を身につけ、生涯に亘って「考え続ける」ための柔軟で粘り強い思考力の礎を築き行動できる。〔幅広い知識・教養を修得し生涯学習を継続できる思考力〕
（2）専門分野に関する体系的な学習内容を含む知識・技術を活用し、具体的な課題解決のプロセスをデザインできる。〔専門分野の知識・技術を活用する課題解決の過程デザイン〕
（3）ユーザーの視点で社会などの課題に対して他者との協働により解決に取り組むことができる。〔他者との協働によるユーザ視点の課題解決力〕
（4）技術者としての倫理観、使命感を確立し、生涯に亘り学び続ける必要性を認識し、その姿勢を身につけ行動できる。〔技術者としての倫理観・使命感に基づく行動力〕
（5）的確な表現方法・技術を用いたコミュニケーション（英語によるコミュニケーション、視覚効果を考慮したプレゼンテーションなどを含む）によって、自らの考えを伝え、他者の理解や共感を導き出せる。〔相互に理解して共感を導くコミュニケーション力〕

ロボティクス＆デザイン工学部　ロボット工学科

ロボット工学科では、ロボティクス＆デザイン工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）現代社会を支える機械・電気・電子・情報・計測・制御などの工学的知識に加え、それらを融合した学際領域であるロボティクス関連の幅広い知識を身につけそれらを活用できる。〔機電情報・計測制御系を融合したロボット工学の知識と活用〕
（B）自らの着想を現実の形とするために工学的基礎能力ならびに科学理論を基に必要な特性を認識し、それらを用いて機構、機能を設計して、ものづくりを実践する方法を身につけ実行できる。〔工学・科学の理論に基づく設計とものづくり実践〕
（C）数学、物理学を用いて論理的に現象を理解し、実験、研究などを通して専門知識を用いた問題解決能力を身につけ実行できる。〔数理系の論理的な現象理解と専門知識による問題解決能力〕

ロボティクス＆デザイン工学部　システムデザイン工学科

システムデザイン工学科では、ロボティクス＆デザイン工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）現代社会を支える機械・電気・電子・情報、計測・制御・通信などの工学的知識に加え、それらを融合したロボティクスおよびネットワーク関連の幅広い知識を身につけそれらを活用できる。〔幅広い工学的知識に基づき技術を融合し活用する力〕
（B）めまぐるしく変化する社会ニーズと技術動向を敏感に捉え、時代に即した新しいものづくりのアイデアを自ら提案することができる。〔社会ニーズ・技術動向分析力とそれに基づくソリューション創出力〕
（C）提案したアイデアを自ら具現化する方法論を身につけ実践できる。〔アイデアを具現化し検証する力〕
（D）人が人らしく豊かに暮らす社会・未来の実現という視点でものづくりを捉え、新しい社会のしくみや生活スタイルを提案し実践できる。〔ユーザ視点に基づく革新的な課題解決法を創出する力〕

ロボティクス＆デザイン工学部　空間デザイン学科

空間デザイン学科では、ロボティクス＆デザイン工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）デザイナーとして自然科学の素養や文化・芸術に関する知識を身につけるとともに工学的知識と思考力を備え、それらを活用できる。〔身につけた教養を活用する思考力〕
（B）専門分野としての建築・インテリアデザイン分野またはプロダクトデザイン分野の基礎と実践力をベースに協働で問題解決に取り組み、優れたデザインを創出できる。〔具体的な提案へとまとめ上げるデザイン実践力〕
（C）自らの発想などを的確に表現できるプレゼンテーション能力と、コミュニケーション能力を身につけ実行できる。〔多様な情報をまとめ、端的に伝えるプレゼンテーション力〕
（D）広い視野に立ち、社会の中で、デザイナーとして責任ある行動をとることができる。〔デザインを社会的に位置づける社会的実行力〕
（E）専門分野の技術の内容を体系的に理解し、PBLで養った実践的ものづくり力で、グローバル社会に対応した価値あるデザインを創出し、豊かな社会の実現に貢献できる。〔デザインの広がりと未来を考える展開力〕

情報科学部

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（情報学）の学位を授与する。

（1）各種システムを開発することのできる専門能力
- 数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびハードウェア・ソフトウェア・システムに関する専門知識を持ち、高度情報化社会のためのシステム開発に活用できる。〔理工系の基礎知識と専門的知識を活用する能力〕
- 豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。〔豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力およびコミュニケーション能力〕

（2）自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力
- 自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考え行動できる。〔自然、社会、文化に対する広い人間的素養〕
- 責任感、倫理観、実行力を持ち自律的に判断し行動できる。〔責任感、倫理観、実行力〕
- 新しいものごとへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。〔自主的・継続的に学習する能力〕

情報科学部　情報知能学科　（旧：コンピュータ科学科）　※2019 年４月名称変更

情報知能学科では、情報科学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）情報システムの社会における位置づけ、様々な分野に及ぼす影響を理解するとともに、それらのシステムに関わる業務の従事者として社会に果たすべき役割と責任を自覚し行動できる。〔情報技術者の位置付けと役割を理解し、行動できる能力〕
（B）知能情報技術、組込みシステム技術、コンピュータ基盤技術等に関連する理工学の基礎知識を持ち活用できる。〔知能情報技術などのベースとなる理工学を理解し、活用できる能力〕
（C）知能情報技術、組込みシステム技術、コンピュータ基盤技術等の基本を理解し、これらを現実の問題解決に応用できる。〔知能情報技術などの基礎を理解し、応用できる能力〕
（D）正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、日本語での文書作成、口頭発表および討論等の対話ができる。〔コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力〕
（E）与えられた課題を解決するために、情報を収集・整理・分析して、問題解決のための計画・方策を立案し、継続的かつ協働的に推進できる。〔情報収集・分析および計画立案・遂行による問題解決能力〕

情報科学部　情報システム学科

情報システム学科では、情報科学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）情報システムが社会、自然等に及ぼす影響を理解し、それらの改善に取り組むことができる。〔情報システムが社会、自然等に及ぼす影響を理解する能力〕
（B）情報システムの発展・改良に向け、広い視野および倫理的な視点から判断し、行動できる。〔広い視野および倫理的な視点からの判断力と行動力〕
（C）情報システムに関連する数学などの理工学およびコンピュータに関する基礎能力を持ち活用できる。〔コンピュータに関する基礎的知識〕
（D）情報システムを構成する要素技術、専門知識を理解・統合し、それを適用してシステムを自ら提案し、設計、開発できる。〔専門知識を活用し情報システムを提案・設計・開発できる能力〕
（E）提案書、設計書などの技術文書を正確、論理的に記述できる。〔正確、論理的な技術文書作成能力〕
（F）発表、討論などの双方向対話において、相手を理解し、自分の考えを論理的かつ正確に伝えることができるとともに、他者と協働して活動することができる。〔他者と協働して活動できる能力〕

情報科学部　情報メディア学科

情報メディア学科では、情報科学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）情報人とメディアの関わりや情報メディアが社会に与える影響を理解した上で、社会に果たすべき役割と責務を自覚し行動できる。〔情報メディアが社会に果たすべき役割と責務を自覚し行動できる能力〕
（B）情報メディア分野で提示される問題を解決するために、主体的・計画的・持続的に取り組むことができる。〔情報メディア分野の課題を主体的・計画的・持続的に取り組むことができる能力〕
（C）情報伝達を行う媒体である情報メディアに関する理論的・実践的なIT基盤技術を理解し、適応することができる。〔情報メディアに関する理論的・実践的なIT基盤技術を理解・適応する能力〕
（D）メディア技術を利用することで、人間中心の考え方をもとにした情報環境を作り出すことができる。〔メディア技術を利用し人間中心の情報環境を創り出す能力〕
（E）自らの考えを伝達するため、情報メディアの特性を利用した効果的なプレゼンテーションおよびコミュニケーションを行うことができるとともに、他者と協働して活動することができる。〔コミュニケーションおよび他者と協働して活動できる能力〕

情報科学部　ネットワークデザイン学科　（旧：情報ネットワーク学科）　※2019年４月名称変更

ネットワークデザイン学科では、情報科学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

（A）情報ネットワーク技術が社会に及ぼす影響や技術者の社会的役割、責務などを理解し、適切に判断して行動ができる。〔情報ネットワークの社会的役割の理解力、技術者としての行動力〕
（B）情報セキュリティ技術、ネットワークシステム技術、コミュニケーションソフトウェア技術に関連する理工学の基礎知識を持ち活用できる。〔基礎工学知識の活用力〕
（C）情報セキュリティ技術、ネットワークシステム技術、コミュニケーションソフトウェア技術を修得し、これらを現実の問題解決に応用できる。〔情報ネットワークの提案・設計・開発能力〕
（D）課題を解決するために、情報を収集、整理、分析し、問題解決のための計画、方策を立案して推進できる。〔問題解決のための計画・方策の立案力・実行力〕
（E）技術文書の作成、発表、討論において、正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持つとともに、他者と協働して活動できる。〔技術文書作成能力、他者と協働して活動できる能力〕

知的財産学部　知的財産学科

４年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（知的財産学）の学位を授与する。なお、特に優秀な成績を修めた者は、３年間で卒業し、知的財産専門職大学院に進学することができる。

（1）人文・社会科学、自然科学を含め、知的財産の創造、保護および活用を行う上で必要となる幅広い教養を身に付けそれらを活用できる。【基礎学力、教養】
（2）知的財産法を法体系に基づいて理解し、その理解を知的財産の創造、保護、活用のために応用することができる。【知的財産法の体系的理解力、法的思考力】
（3）知的財産の創造、保護および活用のために必要な技術、意匠、ブランド、コンテンツまたはビジネスに関する知識、ならびに知的財産を経済社会で活用するための実践的能力を身に付けそれを実践できる。【技術、意匠、ブランド、コンテンツ、ビジネスに関する理解と実践力】
（4）知的財産関連実務で生起する課題を自ら発見でき、その解決のため調査、検討を行うことができる。【問題解決力】
（5）知的財産のグローバルな創造、保護および活用を行うための、英語力と国際性を身に付け活動できる。【国際性】

【卒業要件】
大阪工業大学学則第２５条

卒業に必要な単位は、つぎのとおりとする。

工学部	キャリア形成の基礎20単位[人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位]ならびに工学の基礎26単位および所属する学科の専門科目70単位を含めて合計124単位
ロボティクス＆デザイン工学部	共通教養科目20単位（外国語8単位含む）、工学関連科目18単位、専門横断科目および専門科目76単位、その他（共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目）10単位を含め、合計124単位
情報科学部	共通科目36単位（人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む。人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位必要）、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位を含めて合計124単位
知的財産学部	導入領域8単位、教養領域20単位（英語科目8単位および一般科目12単位を含む）、専門領域74単位（基幹科目28単位、知的財産法科目12単位、技術＆専門科目14単位、探求科目6単位、研究科目4単位を含む）、展開領域14単位（実践英語科目2単位を含む）を含めて合計124単位

大阪工業大学学則第３５条 第１項～第３項 抜粋

1. 工学部および情報科学部については、4年以上在学し、第25条に定める単位を修得し、かつ、卒業研究に合格した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。
2. ロボティクス＆デザイン工学部については、4年以上在学し、第25条に定める単位（卒業研究を含む）を修得した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。
3. 知的財産学部については、4年以上在学し、第25条に定める単位を修得し、かつ、アセスメントテストおよび卒業研究に合格した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。

卒業の認定に関する方針の公表方法	本学ホームページ 【卒業認定に関する方針】 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/de_policy.html 【卒業要件】 http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ http://www.josho.ac.jp/introduction/outline.html
収支計算書又は損益計算書	〃
財産目録	〃
事業報告書	〃
監事による監査報告（書）	〃

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2019 年度事業計画　　対象年度：2019 年度）
公表方法：本学ホームページ http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html
中長期計画（第Ⅲ期中期目標・計画　　対象年度：2018 年度～2022 年度）
公表方法：公表していない

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：本学ホームページ http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/ninsyouhyouka.html#daigaku

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：本学ホームページ http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/ninsyouhyouka.html#daigaku

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　工学部、ロボティクス＆デザイン工学部、情報科学部、知的財産学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html）
（概要） 工学部は、地球環境に配慮しながら、専門技術の基礎ならびに人間力を基盤として幅広い協働によるものづくりを実践でき、常に向上を目指す心身ともにたくましい技術者を育成することを目的とします。 ロボティクス＆デザイン工学部は、工学的な知識・技術を人間中心の視点から活用し、持続可能で豊かな社会の形成や発展に貢献できる専門職業人を育成することを目的とします。 情報科学部は、情報通信に関する知識や技術を学び、広い視野と倫理観を持って社会や産業活動の情報化とその発展に貢献する健全な技術者あるいは専門職業人を育成することを目的とします。 知的財産学部は、健全な人間性、知的能力および国際感覚を有することにより、21 世紀の産業社会において活躍する者にして、知的財産の保護と活用を推進することに貢献できる職業人を養成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/de_policy.html）
（概要） **卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定し、卒業を認定するうえで、授業や卒業研究を通じて学生の方が身に付けるべき力を具体的に示しています。この方針は、本学ホームページ等で公開しているほか、学生の方には本学独自の学修成果可視化システムにより、ディプロマポリシーの達成度を確認できるようになっています。** **また、卒業の要件は学則第 25 条・31 条に定めるほか、学科ごとの詳細を各学部履修規定に定め、所定の修得単位数等を踏まえ、教授会の議を経て学長が卒業を許可します。** **【卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）の具体的な内容】** **工学部** ４年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。 （１）実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕 （２）人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文･理･情報系の素養〕 （３）専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識･技術(詳細は学科 DP)〕 （４）技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション力〕 （５）社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕 （６）地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕

ロボティクス＆デザイン工学部

４年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通して、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

（１）専門分野はもとより、人文・社会・自然科学その他幅広い知識・教養を身につけ、生涯に亘って「考え続ける」ための柔軟で粘り強い思考力の礎を築き行動できる。〔幅広い知識・教養を修得し生涯学習を継続できる思考力〕
（２）専門分野に関する体系的な学習内容を含む知識・技術を活用し、具体的な課題解決のプロセスをデザインできる。〔専門分野の知識・技術を活用する課題解決の過程デザイン〕
（３）ユーザーの視点で社会などの課題に対して他者との協働により解決に取り組むことができる。〔他者との協働によるユーザ視点の課題解決力〕
（４）技術者としての倫理観、使命感を確立し、生涯に亘り学び続ける必要性を認識し、その姿勢を身につけ行動できる。〔技術者としての倫理観・使命感に基づく行動力〕
（５）的確な表現方法・技術を用いたコミュニケーション（英語によるコミュニケーション、視覚効果を考慮したプレゼンテーションなどを含む）によって、自らの考えを伝え、他者の理解や共感を導き出せる。〔相互に理解して共感を導くコミュニケーション力〕

情報科学部

４年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（情報学）の学位を授与する。

（１）各種システムを開発することのできる専門能力
・数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびハードウェア・ソフトウェア・システムに関する専門知識を持ち、高度情報化社会のためのシステム開発に活用できる。
〔理工系の基礎知識と専門的知識を活用する能力〕
・豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。〔豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力およびコミュニケーション能力〕

（２）自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力
・自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考え行動できる。
〔自然、社会、文化に対する広い人間的素養〕
・責任感、倫理観、実行力を持ち自律的に判断し行動できる。〔責任感、倫理観、実行力〕
・新しいものごとへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。
〔自主的・継続的に学習する能力〕

知的財産学部

４年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（知的財産学）の学位を授与する。なお、特に優秀な成績を修めた者は、３年間で卒業し、知的財産専門職大学院に進学することができる。

（１）人文・社会科学、自然科学を含め、知的財産の創造、保護および活用を行う上で必要となる幅広い教養を身に付けそれらを活用できる。【基礎学力、教養】
（２）知的財産法を法体系に基づいて理解し、その理解を知的財産の創造、保護、活用のために応用することができる。【知的財産法の体系的理解力、法的思考力】
（３）知的財産の創造、保護および活用のために必要な技術、意匠、ブランド、コンテンツまたはビジネスに関する知識、ならびに知的財産を経済社会で活用するための実践的能力を身に付けそれを実践できる。【技術、意匠、ブランド、コンテンツ、ビジネスに関する理解と実践力】
（４）知的財産関連実務で生起する課題を自ら発見でき、その解決のため調査、検討を行うことができる。【問題解決力】
（５）知的財産のグローバルな創造、保護および活用を行うための、英語力と国際性を身に付け活動できる。【国際性】

【卒業要件】

大阪工業大学学則第 25 条

卒業に必要な単位は、つぎのとおりとする。

工学部	キャリア形成の基礎 20 単位〔人文社会科学 10 単位、外国語 8 単位(英語 6 単位を含む)、体育 2 単位〕ならびに工学の基礎 26 単位および所属する学科の専門科目 70 単位を含めて合計 124 単位
ロボティクス&デザイン工学部	共通教養科目 20 単位(外国語 8 単位含む)、工学関連科目 18 単位、専門横断科目および専門科目 76 単位、その他(共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目)10 単位を含め、合計 124 単位
情報科学部	共通科目 36 単位(人文社会科学 12 単位以上、外国語 8 単位、健康・スポーツ科学 2 単位、総合理学系 12 単位以上を含む。人文社会科学、総合理学系のいずれかは 14 単位必要)、キャリア科目 2 単位および所属する学科の専門科目 86 単位を含めて合計 124 単位
知的財産学部	導入領域 8 単位、教養領域 20 単位(英語科目 8 単位および一般科目 12 単位を含む)、専門領域 74 単位(基幹科目 28 単位、知的財産法科目 12 単位、技術＆専門科目 14 単位、探究科目 6 単位、研究科目 4 単位を含む)、展開領域 14 単位(実践英語科目 2 単位を含む)を含めて合計 124 単位

大阪工業大学学則第３１条 第１項～第３項 抜粋

1. 工学部および情報科学部については、4 年以上在学し、第 25 条に定める単位を修得し、かつ、卒業研究に合格した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。

2. ロボティクス＆デザイン工学部については、4 年以上在学し、第 25 条に定める単位（卒業研究を含む）を修得した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。

3. 知的財産学部については、4 年以上在学し、第 25 条に定める単位を修得し、かつ、達成度確認テストおよび卒業研究に合格した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ
https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/cu_policy.html）

（概要）

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定された卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）を踏まえた内容となっています。各学部等の教育課程は、カリキュラムポリシーに即し、専門科目を 1 年次から配置して教養科目と混在させる“くさび形”の形態を取り入れるとともに、必修科目・選択必修科目、講義・演習・実験等を適切に配置し実践力を養成する体系的な教育課程となっています。

【教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）】

工学部

工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

1）人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。
2）継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
3）必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。
4）実験・実習・探求演習（Project Based Learning、PBL）科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。
5）技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命観ならびに倫理観を養う。
6）学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。

ロボティクス＆デザイン工学部

ロボティクス＆デザイン工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下の方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

1）人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産等に関する科目によって、技術者・デザイナーに求められる幅広い教養を養う。その前提として、日本語リテラシー（理解力・表現力）に関わる能力を高める。
2）継続的な英語教育によって、英語による基礎的コミュニケーション能力を養う。
3）必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。
4）実験・実習・探求演習（Problem-Based Learning）の科目によって、自発的・継続的に学習する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力を養う。
5）技術者倫理に関する科目等によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。
6）学士課程教育の集大成となる卒業研究までの学修の積み重ねにより、自らの専門分野の特性を他分野の特性理解によって正しく把握し、協働によって課題を解決できる能力を養う。また、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等と目的・目標を完遂する行動特性を養う。

情報科学部

情報科学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

なお、学修に際しては、日本技術者教育認定機構が定める国際基準に準拠したカリキュラムから構成されるコンピュータ・サイエンスコースと、各学科の専門性を生かした総合コースのいずれかを選択する。

1）豊かな人間性を養う共通教育

総合人間学系と総合理学系に関する教育を通して幅広い教養を身につけ、社会の多様化や高度情報化に柔軟に対応できる能力を育成する。また、キャリアデザインに関する教育により、大学での学修の動機付けを促し、社会人基礎力を養う。

2）実践的な情報技術者を育成する専門教育

a）情報科学の基礎となる「数理科学」では、情報数学、確率・統計などの数理科学的能力を養い、学科共通的な「専門基礎」では専門科目を体系的に学ぶ上で必要となる基礎的能力を育成する。

b）「情報知能」、「情報システム」、「情報メディア」、「情報ネットワーク」の各分野の「基幹科目」、「応用科目」により専門性を高め、さらに「演習科目」での学修を通して専門分野を統合してシステムを設計、実装する能力を養う。

3）４年次ではそれぞれの学科で学んだ内容の集大成として「卒業研究」を行い、論理的思考力、コミュニケーションやプレゼンテーションの総合的能力の育成を図るとともに、社会における情報技術の役割や情報技術者の責任などについても理解を深める。

知的財産学部

知的財産学部ディプロマ・ポリシーに示した能力を備えた人材を育成するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1）導入領域および教養領域、展開領域、連携領域における諸科目を通じて、知的財産に関わる専門職業人に求められる幅広い教養と社会人基礎力を身に付ける。

2）専門領域の基幹科目と知的財産法科目および技術＆専門科目を通じて、知的財産法を体系的に理解し、その理解を知的財産の創造、保護、活用のために応用する能力を身に付ける。

3）専門領域の基幹科目、技術＆専門科目、探求科目および研究科目を通じて、知的財産の創造、保護および活用のために必要な技術、意匠、ブランド、コンテンツまたはビジネスに関する知識、ならびに知的財産を経済社会で活用するための実践的能力を身に付ける。

4）専門領域の探求科目と研究科目を通じて、知的財産関連実務において生起する諸課題を自ら発見し、その解決のための調査、検討を行う能力を身に付ける。

5）教養領域および展開領域の実践英語科目、専門領域の国際法・比較法関連科目を通じて、知的財産実務で活用できる英語力と国際性を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ http://www.oit.ac.jp/japanese/juken/outline/pdf/policy/faculty_admission_policy_2017.pdf）
（概要） ・本学は建学の精神及び教育の理念・方針に基づき、アドミッションポリシー及び求める人材像を定めています。また、「学校法人常翔学園行動規範」には、アドミッションポリシーに基づいた公正な入学者選考を行うため、受験生やその保護者、受験生の所属する学校等に対して正確な情報を積極的に提供すると規定しています。 ・全学のアドミッションポリシーを基に、各学部・学科においても各教育・研究分野に沿ったアドミッションポリシー及び求める人物像を制定しています。 ・受入れの方針は、学生募集要項等の印刷物、本学ホームページで広く公表しています。 ・受験生に対しては、大学案内等の印刷物、オープンキャンパスや教員による高校への出張講義等のイベントを通じて、各学部・学科における学びや将来の進路、教育研究に取組む学生等を紹介し、アドミッションポリシーを体現した事例としてわかりやすく提示しています。 ・高校の 3 年生クラス担任や進路指導担当教員に対しては、大学主催の入試説明会を実施するほか、入試部スタッフにより高校等を訪問しています。これらの活動を通じて受入れ方針や入試要項を伝えることはもちろん、学生募集担当の職員として高校現場の現状を認知し、本学における学生募集活動の考え方や方針を改めて確認するきっかけとも捉えています。加えて、高校現場が求めている情報提供のため入試部内で情報共有する機会を設けるなど学生募集力の更なる向上にも継続して取り組んでいます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/soshiki.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	4 人	－					人
工学部	－	72 人	48 人	18 人	人	人	138 人
ロボティクス&デザイン工学部	－	20 人	13 人	1 人	人	人	34 人
情報科学部	－	26 人	20 人	13 人	人	人	59 人
知的財産学部	－	10 人	5 人	1 人	人	人	16 人
大学院	－	9 人	4 人	人	人	人	13 人
附属研究所	－	2 人	人	人	人	人	2 人
その他	－	9 人	6 人	9 人	人	人	24 人

b.教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	403 人	403 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/soshiki.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

a　実施内容

１．授業方法等に関するＦＤ・ＳＤフォーラム
２．教員研修会
３．ＦＤニュースの発行
４．教職員研修ワークショップ
５．学部独自によるＦＤ活動

b　開催状況

１．授業方法等に関するＦＤ・ＳＤフォーラム（教職員全員を対象）
開催日：平成３０年１１月２１日（水）
テーマ：「ディプロマ・ポリシーとシラバスの作成について」「DS システムに基づく修学指導の導入実践報告」

２．教員研修会
学部から推薦された教員に対し、アクティブラーニング等に関する研修会を行っている。
開催日：平成３０年　９月１４日（金）
テーマ：授業の基本ワークショップ「理系のためのアクティブラーニング」

３．ＦＤニュースの発行
大阪工業大学ＦＤ委員会が発行。大学のＦＤ活動に関する記事を掲載し、教職員全員を対象として配付している。
【第１６号】
発行日：平成３１年　１月２８日
【第１７号】
発行日：平成３１年　３月２９日

４．教職員研修・学生ワークショップ
教育の質保証をはじめとする様々な問題や課題へ対応するためには、教職員が一丸となり取り組むことが求められており、ＦＤ・ＳＤ活動を一つにまとめた研修を実施している。
開催日：平成３０年１２月２５日（火）・２６日（水）
テーマ：社会人として必要なこと

５．学部独自によるＦＤ活動
・工学部
教員相互の授業参観を後期授業において実施。
・情報科学部
○授業参観：教員相互の授業参観を後期授業において実施。
○情報科学部第１回ＦＤフォーラム
開催日：平成３０年７月２７日（金）

テーマ：「デジタル教材開発プロジェクトについて」
「IC 科１年前期科目「プログラミング入門」の紹介」
○情報科学部第２回ＦＤフォーラム
開催日：平成３０年１２月１９日（水）
テーマ：「英語習熟度別クラスの実践について(報告)」
「初年次教育におけるアカデミック・スキル導入事例
−文系総合大学における実践報告−」
・知的財産学部
教員相互の授業参観を前期・後期授業においてに実施。

c　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

ＦＤ・ＳＤフォーラム（平成２６年度までＦＤフォーラム）に参加するとともに、授業公開を実施することで、授業改善や研究指導における理解度を高めるための工夫を重ねている。これは、単に学生が研究活動を円滑に行えるだけでなく、自ら研究活動を進めるための能力の向上にもつながっており、ひいては研究分野における社会への貢献にもつながっている。特に、授業改善のため授業公開に積極的に参加することを勧めている。今後も引き続き改善を進めていくとともに教員の資質の維持向上に努めていく。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a　実施の有無及び実施時期

・平成３０年度：平成３０年５・７・１０月、平成３１年１月（全４回）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
工学部	900 人	906 人	100.7%	3,790 人	3,732 人	98.5%	40 人	4 人
ロボティクス&デザイン工学部	280 人	290 人	103.6%	855 人	846 人	98.9%	15 人	1 人
情報科学部	420 人	435 人	103.6%	1,680 人	1,673 人	99.6%	20 人	1 人
知的財産学部	140 人	154 人	110.0%	580 人	597 人	102.9%	10 人	0 人
合計	1,740 人	1,785 人	102.6%	6,905 人	6,848 人	99.2%	85 人	6 人

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
工学部	1,016 人 (100%)	181 人 (17.8%)	810 人 (79.7%)	25 人 (2.5%)
情報科学部	367 人 (100%)	34 人 (9.3%)	328 人 (89.4%)	5 人 (1.4%)
知的財産学部	130 人 (100%)	20 人 (15.4%)	107 人 (82.3%)	3 人 (2.3%)
合計	1,513 人 (100%)	235 人 (15.5%)	1,245 人 (82.3%)	33 人 (2.2%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
主な進学先：大阪工業大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学　主な就職先：エ－大和ハウス工業㈱14、㈱協和エクシオ 13、スズキ㈱・大阪府庁各 7、寺崎電気産業㈱・三菱電機エンジニアリング・東海旅客鉄道㈱各 6、国土交通省近畿地方整備局 5、西日本旅客鉄道㈱・関西電力㈱各 4 など。情報科－㈱ＮＳＤ9、三菱電機マイコン機器ソフトウェア㈱8、㈱デンソーテンテクノロジ 7、関電システムソリューションズ㈱6、㈱インターネットイニシアティブ・三菱電機コントロールフトウェア㈱・㈱インテック・Sky㈱各 4、㈱NTT ネオメイト 3、パナソニックデバイスシステムテクノ㈱2 など。知的財産－大阪シティ信用金庫・大阪厚生信用金庫・富士ソフト㈱各 2、ソフトバンク㈱・船井電機㈱・㈱大塚商会・タカラスタンダード㈱・阪急電鉄㈱・近畿日本ツーリスト㈱・大阪府警本部各 1 など。

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	1,087 人 (100%)	910 人 (83.7%)	93 人 (8.6%)	84 人 (7.7%)	0 人 (0.0%)
情報科学部	423 人 (100%)	331 人 (78.3%)	47 人 (11.1%)	45 人 (10.6%)	0 人 (0.0%)
知的財産学部	156 人 (100%)	124 人 (79.5%)	17 人 (10.9%)	15 人 (9.6%)	0 人 (0.0%)
合計	1,666 人 (100%)	1,365 人 (81.9%)	157 人 (9.4%)	144 人 (8.6%)	0 人 (0.0%)

（備考）
修業年限期間内卒業者数において、情報科学部（３３１人）のうち工学部からの転部者が１人、知的財産学部（１２４人）のうち工学部からの転部者が２人含まれている。このため、入学者数において転部元の工学部で３人減じ、情報科学部で１人、知的財産学部で２人増加している。
中途退学者において主たる理由は、「進路変更（就職・他大学等）」である。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

本学では、全ての科目において、授業科目の概要・各回の授業内容や予習復習指示・到達目標・評価方法・成績評価基準・教科書や参考書、オフィスアワーなどをシラバスに明記しています。

シラバスは、全学教務委員会で承認されたシラバス作成方針に基づき、各授業担当者が作成しています。作成方針は、全学教務委員会から各学部教務委員会を通じて、全学部・学科に周知徹底を図っています。また、作成されたシラバスは、内容がカリキュラム・ポリシーや体系に即したものとなっているかを学科長や教務委員が確認しており、授業担当者以外の第三者がチェックする体制を全学的に確立しています。

公表は、学生や教員のみならず進学希望者も広く閲覧できるように本学ホームページのシラバス専用ページに掲載しています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

授業科目の学修成果は、あらかじめシラバスに示されている到達目標・評価方法・成績評価基準に基づき判定しています。成績評価基準は全学で統一しているほか、評価方法は学期末の試験（定期試験）のみならず、平常点、レポート、小テスト等を加味した多様な手段で評価し、それらを基に総合的に評価しています。

また、2017 年度より必ず身につけなければ単位修得ができない最低限の基準となる「ミニマム・リクワイアメント」をシラバスに明記し厳格な成績評価の運用を推進しています。

学修成果の発表は、9 月（前期）と 3 月（後期）に「学業成績簿」を交付する形で行います。なお、クォーター科目（前半）の学業成績発表は Web 公開のみとし、7 月（前期前半）と 12 月（後期前半）に行います。

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定し、卒業を認定するうえで、授業や卒業研究を通じて学生の方が身に付けるべき力を具体的に示しています。この方針は、本学ホームページ等で公開しているほか、学生の方には本学独自の学修成果可視化システムにより、ディプロマポリシーの達成度を確認できるようになっています。

また、卒業の要件は学則第 25 条・31 条に定めるほか、学科ごとの詳細を各学部履修規定に定め、所定の修得単位数等を踏まえ、教授会の議を経て学長が卒業を許可します。

学業成績の評価基準および表示は以下のとおりです。

表示	N	G	A	B	C	D	F	＊
点数等	認定	合格	100－90	89－80	79－70	69－60	59－0	評価不能
合否		合格					不合格	

（注）①定期試験等非受験、レポート未提出および授業に出席していないなどにより、成績の評価ができない場合は「＊」と表示されます。

②点数等で評価できない、演習等一部授業科目の合格は「G」で表記する場合があります。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
工学部	都市ﾃﾞｻﾞｲﾝ工学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	124 単位	有	48 単位（2017 年度以前）
	建築学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	機械工学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	ロボット工学科	124 単位	有	48 単位（2017 年度以前）
	電気電子ｼｽﾃﾑ工学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	電子情報ｼｽﾃﾑ工学科（2019 年度以降）／電子情報通信工学科（2018 年度以前）	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	応用化学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	環境工学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	生命工学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）

ロボティクス＆デザイン工学部	ロボット工学科	124 単位	有	48 単位
	ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ工学科	124 単位	有	48 単位
	空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	124 単位	有	48 単位
情報科学部	情報知能学科（2019 年度以降）／ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学科（2018 年度以前）	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	情報ｼｽﾃﾑ学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
	ﾈｯﾄﾜｰｸデザイン学科（2019 年度以降）／情報ﾈｯﾄﾜｰｸ学科（2018 年度以前）	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
知的財産学部	知的財産学科	124 単位	有	44 単位（2018 年度以降） 48 単位（2017 年度以前）
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：HP に掲載 https://www.oit.ac.jp/japanese/students/credit.html#credit4		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：HP に掲載 ①学長表彰 （https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/honor_provost.html） ②学生の授業満足度[FD NEWS より(No.2 は P.3、No.3 は P.2、創刊号および No.4 以降は P.4 に掲載)] （https://www.oit.ac.jp/japanese/learning/fd_news.html）		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ、大学案内
施設・設備　http://www.oit.ac.jp/japanese/facility/index.html
大宮キャンパス　http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/access_omiya.html
梅田キャンパス　http://www.oit.ac.jp/rd/umeda/index.html
枚方キャンパス　http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/access_hirakata.html
八幡工学実験場　http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/access_yahata.html
校地・建物面積　http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data02.html
「大学案内」は本学ホームページ「資料請求ページ」から請求可
http://www.oit.ac.jp/japanese/juken/request/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

2017 年度以降入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,260,000 円	－円	100,000 円	1 年次納入 （その他：教育充実費）
		1,260,000 円	－円	200,000 円	2 年次以降納入 （その他：教育充実費）
ロボティクス＆デザイン工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,260,000 円	－円	150,000 円	1 年次納入 （その他：教育充実費）
		1,260,000 円	－円	300,000 円	2 年次以降納入 （その他：教育充実費）
情報科学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,260,000 円	－円	100,000 円	1 年次納入 （その他：教育充実費）
		1,260,000 円	－円	200,000 円	2 年次以降納入 （その他：教育充実費）
知的財産学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,000,000 円	－円	50,000 円	1 年次納入 （その他：教育充実費）
		1,000,000 円	－円	150,000 円	2 年次以降納入 （その他：教育充実費）

2013～2016 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,400,000 円	－円	－円	毎年度納入
情報科学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,400,000 円	－円	－円	毎年度納入
知的財産学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,100,000 円	－円	－円	毎年度納入

2012 年度以前入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,280,000 円	－円	－円	毎年度納入
情報科学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,280,000 円	－円	－円	毎年度納入
知的財産学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,100,000 円	－円	－円	毎年度納入

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、各学部・学科とも新入生への導入教育として少人数のゼミ形式（基礎ゼミナール）や演習形式による授業科目に加え、入学後間もない時期に学科独自の新入生オリエンテーションを実施することで、教員と学生、学生同士のコミュニケーションを図りながら大学で学ぶ意義を考え、自校史教育なども交え自己啓発を行い、高校までの受動的な学習態度から大学で必要な能動的で自律的な学修態度への転換を育みます。低学年次では基礎ゼミナール等の担当教員、高学年次では３年次ゼミや卒業研究ゼミの担当教員が担任となることで、学生と常にコミュニケーションを取れるきめ細かい修学支援体制を構築しています。 また、専門科目を学ぶ上で必要となる基礎学力の補完を目的とした基礎力向上講座を教育センターで開講しています。同講座では、１年次配当の数学・物理の正課授業科目と連携し、授業内容に沿った問題演習を行うことで基礎学力の定着を図り、専門科目の学修へと繋げています。教育センターでは、同講座の開講のほか、学生の皆さんの疑問や不安に対し、個人（グループ可）ごとに応じる個別学習相談も実施しており、専属教員および学生チューターが待機し、訪れる学生のレベルに合わせた学習サポートを行っています。 あわせて、本学では従来の修得単位数以外に、ディプロマ・ポリシー達成状況や分野別達成状況といった学修成果を可視化する独自システムを構築しています。各期末には、学生の方はこのシステムを活用し自身の学修状況を振り返り、次期の学修目標・計画を設定し、教員は面談等を通じた修学指導を全学生に対して実施する取り組みを順次進めています。とりわけ、学業成績不振学生への修学指導は手厚く、前期・後期ごとに教員と学生、時には保証人を含めた修学指導面談を実施しています。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、就職支援も教育の一環としてとらえています。 卒業研究指導教員、就職担当教員、就職部スタッフが一体となって支援する体制をとっているのはそのためです。各学科ごとに就職担当教員（２名）と就職部職員を配置し、きめ細やかにフォローする体制を確立、進路希望の把握から進路決定までの完全な個別サポートに力を入れています。また、学生自身が主体的に進路を考え、選択する意思をサポートするため１，２年生にはキャリア形成支援の授業科目を開講しています。グループワーク中心の学生参加型授業を展開しつつ、コミュニケーション能力の向上に取り組んでいます。 ３年生にはインターンシップ制度も整えており、自己理解、進路先理解、啓発的経験というキャリア形成のステップを経て学生が進路選択に向かう流れを実現しています。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、全キャンパスの学生相談室において臨床心理士資格を持った心理カウンセラーが学生から悩み事等の相談を受け付け、学生生活のサポートをしています。さらに各学科の専任教員が学生担当委員として各種相談にあたっています。その他、保健室において心療内科医による定期相談を行ったり、学生課・教務課・学部事務室においても各職員が随時学生からの相談に応じたり、学生が一人で思い悩むことのないように支援を行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「情報の公表」 http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html ※冊子媒体などは作成していない